

平成23年度  
事業報告書

自 平成23年 4月 1日  
至 平成23年10月31日

公益財団法人日本室内楽振興財団

## はじめに

今般、公益財団法人への移行認定を受け、旧法人の最終事業年度（平成23年4月1日～平成23年10月31日まで）となります。

5月には当財団の最も大きな事業である、第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」を開催いたしました。

また、室内楽の演奏活動及び教育普及活動に対する助成事業、調査研究、広報誌発行の事業を行いました。

さらに11月4日からの「グランプリ・コンサート2011」では、コンクール優勝団体「アタッカ・クアルテット」を招き全国10地区での公演を予定しています。

## I 事業の状況

### (1) 大阪国際室内楽コンクール&フェスタに関する事業

平成23年4月～10月の期間、以下の事業を実施しました。

当財団は、第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」を、「いずみホール」を会場として、5月17日から25日まで予定通り開催いたしました。今大会は、開催2ヵ月前に発生した東日本大震災の影響で海外から参加予定の15団体が出場辞退となりましたが、最終的には世界12カ国から32団体119名の熱き心を持った演奏家が参加し、熾烈な競争の結果、各部門の入賞団体を決定することができました。今回も、世界の一流音楽家12名を審査委員としてお迎えし、世界でもトップクラスの室内楽コンクールを開催することができました。

尚、国際的に著名なイギリスの音楽雑誌『**The Strad**』は、今大会について「このコンクールの主催者は、当初の予定を変更することなく、後から振り返れば『**すばらしい室内楽の経験**』(an outstanding chamber music experience)を創出することができた。わずか18年の歴史の中で、このコンクールは、ロンドン、バンフ(カナダ)、レッジオ・エミリア(イタリア)と並ぶ世界の主要な室内楽コンクールに成長していた。」と、高く評価しております。

本事業がこれまでにない困難な状況下にも拘らず、滞りなく開催できましたのは、諸先輩方の長きにわたるご尽力と、文化庁をはじめとする関係諸団体及び協賛各社のご支援の賜物でございます。以下、今大会の概要についてご報告いたします。

#### (1) 開催要項

- [主 催] 日本室内楽振興財団
- [後 援] 外務省、文化庁、大阪府、大阪市、関西経済連合会、  
日本演奏連盟、いずみホール、OBP開発協議会、読売新聞社
- [協 賛] アサヒビール、イオン、岩谷産業、大阪ガス、鹿島建設、関西電力、  
三機工業、サントリー、須賀工業、住友生命、ダイキン工業、東芝、  
ハウス食品、パナソニック、非破壊検査、JR西日本、JT、NEXCO西日本
- [助 成] 日本財団
- [賛 助] 読売テレビ放送
- [期 間] 平成23年5月17日(火)～平成23年5月25日(水)
- [会 場] いずみホール (住所：大阪府中央区城見1丁目)
- [応募資格] コンクール 開催時の年齢が16才～35才の団体。国籍は問いません。  
フェスタ 年齢、国籍を問いません。

[部門と賞金]

部 門	編 成	賞 金	
第 1 部門	弦楽四重奏	1 位	300万
		2 位	150万
		3 位	100万
第 2 部門	管楽アンサンブル	1 位	300万
		2 位	150万
		3 位	100万

フェスタ	2人～6人のアンサンブル 楽器の組み合わせは自由 年齢制限はなし	メニューイン金賞 200万 銀賞 100万 銅賞 60万 フォークロア特別賞 30万
------	--	---

(2) 各部門の応募・出場団体数

部門 団体数	第1部門	第2部門	フェスタ	合 計
応募団体数	35	30	146	211
予備審査合格数	11	13	23	47
出場団体数	6	10	16	32

(3) 各部門の入賞団体と優勝団体のプロフィール

①第1部門〈弦楽四重奏〉

- ・1次予選出場団体数 6団体
- ・2次予選出場団体数 6団体
- ・本選出場団体数 4団体

〈入賞団体〉

賞	団 体 名	国 名
第1位	アタッカ・クアルテット	アメリカ
第2位	シューマン・クアルテット	ドイツ
第3位	ウェールズ弦楽四重奏団	日本(在スイス)
奨励賞	ノガ・クアルテット	フランス

### ☆アタッカ・クアルテット(アメリカ)

#### Attacca Quartet (USA)

2006年、第60回コールマン室内楽コンクールでアリス・コールマン・グランド・プライズを獲得。2007年カーネギーホールのリサイタルホールでのデビュー以来、同ホールで何度もコンサートに出演。ノーフォーク室内楽フェスティバル、バンフ・センター、及びボストン大学タングルウッド・インスティテュートのレジデント・アーティストを経て、2010年から2011年のノーザンライツ音楽祭のレジデント・クアルテットを務めている。



## ②第2部門〈管楽アンサンブル〉

- ・1次予選出場団体数 10団体
- ・2次予選出場団体数 7団体
- ・本選出場団体数 4団体

〈入賞団体〉

賞	団体名	国名
第1位	モーフィン・クアルテット(サクソフォン四重奏)	フランス
第2位	イン・メディアス金管五重奏団	ハンガリー
第3位	アンサンブル・ミクスト(木管五重奏)	日本
奨励賞	メリスマ・サクソフォン四重奏団	オランダ

### ☆モーフィン・クアルテット(フランス)

#### Morphing Quartet (France)

パリ国立高等音楽院でクロード・ドゥラングル氏のサクソフォンの授業を受けていた学生により結成。メンバーは、音楽に対する共通の思いから、フランスの国内外で開催される多くのフェスティバルに出演してきた。2010年にはパリ国立高等音楽院の室内楽コースに入学。現在はデイヴィッド・ウォルター氏やミシェル・モラゲス氏の下で研鑽を積んでいる。彼らはサクソフォン四重奏のレパートリーを増やすため新曲の開発に熱心に取り組み、現代作曲家との共同作業も行っている。



### ③フェスタ〈2名～6名の室内楽、楽器編成は自由〉

- ・予選出場団体数 16団体
- ・本選出場団体数 8団体

〈入賞団体〉

賞	団体名	楽器編成	国名
メニューイン金賞	トリオ「国境なきクラシック」	ピアノ、ドムラ x 2	ロシア
銀賞	ネポムク・クインテット	ピアノ5重奏	チェコ
銅賞	カリヨン	木管五重奏	デンマーク
フォークロア特別賞	ヴァイヴォラ	リトアニアの民族楽器(カンクレス、バービネx2、ラムツデリス他)	リトアニア

#### ☆トリオ「国境なきクラシック」(ロシア)

##### Trio "Classic Without Borders" (Russia)

2006年に結成。メンバーは全員ロストフ州立ラフマニノフ音楽院を卒業しており、その最初の本格的な活動は、音楽院の大コンサートホール建設のためのチャリティーコンサートであった。バッハ、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、シュニトケ等の著名な交響曲を、自分たちで編曲し、それをレパートリーとしている。また、現代の作曲家とも協力している。彼らはロシアのみならずヨーロッパの国々でも活躍している。



## (4) 各部門の特記事項

### ① 第1部門 (弦楽四重奏の部)

震災前は、過去最多となる35団体から選抜された粒よりのクアルテット11団体が参加予定であったが、大阪の後の6月のイタリア、7月のオーストラリアでそれぞれ弦楽四重奏の国際コンクールがあるためか、5団体が出場辞退となりました。今回上位入賞した3団体は、いずれも日本人が一人は入っているため、日本の状況を適切に判断し、参加したものと思われます。

また、今回は出場辞退があったものの、多数の応募団体の中から厳選したため、少数精鋭の戦いとなり、1次予選・2次予選・本選と進むうち、演奏者も乗ってきて大会が

盛り上がり、殊に本選では、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲 15 番 (op.132) や、シューベルトの 14 番『死と乙女』(D810)、15 番 (D887) とそれぞれ得意の曲を遺憾なく披露し、審査委員を大いに悩ます出来となりました。

## ②第2部門 (管楽アンサンブルの部)

第2部門は、木管5重奏団・サクソフォン四重奏団・金管5重奏団の3ジャンルの混成ですが、その応募(出場)の内訳は、木管5重奏が9団体(2団体)、サクソフォン四重奏が15団体(5団体)、金管5重奏が6団体(3団体)でした。管楽アンサンブルの国際コンクールが少ないことから、僅か3団体が出場辞退に留まりました。

結果的には、各ジャンルの最強のアンサンブルが本選に出場し、それぞれの楽器の特徴を上手く表現し、入賞を分かち合いました。

## ③フェスタ (2~6名のアンサンブル、楽器編成は自由)

予選出場団体数は16団体と当初予定の2/3でしたが、打楽器の団体や民族音楽の団体等、多種多彩の団体が出場しました。参加団体は、来日前からチャリティーコンサートにも参加したいと連絡して来た熱い心のアンサンブルが大半でした。

本選では、偶然にも最後の3団体が続けて最高の演奏をし、プロの眼から見ても大変素晴らしい演奏であったので、様々な形の室内楽の演奏に138名の一般審査員が大いに喜び、室内楽の奥深さに感動しました。

## (5) コンクール&フェスタの関連事業

### ①レクチャー・コンサート

第5回、第6回コンクール同様にコンクールの参加団体と審査委員が出演し、大阪市と共催でレクチャー・コンサート(無料)を行いました。その実施概要は次の通りです。

- a. 5月21日(土) 「弦楽四重奏の愉しみ」  
講師 : 堤剛審査委員長  
出演団体 : 1団体  
聴衆 : 73名
- b. 5月22日(日) 「管楽アンサンブルの魅力」  
講師 : ミシェル・ルティエク  
審査副委員長  
出演団体 : 3団体  
聴衆 : 51名



会場はいずれも「大阪市役所ロビー」で、サロン形式で講師のお話と参加団体の演奏を行いました。当日の聴衆にとって間近で聞く演奏はコンクール会場で聞くのとは一味違った室内楽ではなかったかと思われます。

## ②チャリティー・コンサート

東日本大震災の被災者のためのチャリティー・コンサートを企画したところ、フェスタ参加の7団体が参加を表明。5月23日（月）大阪市内の2会場で、延べ90名の聴衆に室内楽を楽しんでもらい、募金に協力いただきました。



## (6) グランプリ・コンサートの実施

各部門で優勝した団体は、以下の日程で日本に招聘し、国内10会場でコンサートを実施の予定です。尚、今年のグランプリ・コンサートは、11月に10地区での公演を終了しています。

- |   |             |      |                |        |
|---|-------------|------|----------------|--------|
| ・ | グランプリ・コンサート | 2011 | アタッカ・クアルテット    | (第1部門) |
| ・ | グランプリ・コンサート | 2012 | モーフィン・クアルテット   | (第2部門) |
| ・ | グランプリ・コンサート | 2013 | トリオ「国境なきクラシック」 | (フェスタ) |

### 国別・部門別 応募・参加団体数

国名		第1部門		第2部門		フェスタ		合計	
		応募数	参加数	応募数	参加数	応募数	参加数	応募数	参加数
1	アメリカ	7	2	3	2	17	3	27	7
2	イギリス	5				5		10	
3	イスラエル					1		1	
4	イタリア					1		1	
5	ウクライナ					1		1	
6	オーストラリア					3		3	
7	オーストリア	1		1		2		4	
8	オランダ	1		1	1	1		3	1
9	カナダ					1		1	
10	韓国	2	1	1		2	1	5	2
11	コロンビア					1		1	
12	スイス	1				5		6	
13	スペイン			1		3		4	
14	チェコ	1				4	2	5	2
15	中国					2		2	
16	デンマーク					1	1	1	1
17	ドイツ	5	1	4		14	1	23	2
18	トルコ					1		1	
19	ハンガリー	1		1	1	1		3	1
20	フランス	1	1	4	1	4	1	9	3
21	ブルガリア					1		1	
22	ベラルーシ					1		1	
23	ベルギー					1		1	
24	ポーランド	1				6	2	7	2
25	ポルトガル					1		1	
26	ラトビア					1		1	
27	リトアニア					1	1	1	1
28	ロシア	3				37	2	40	2
小計		29	5	16	5	119	14	164	24
29	日本	6	1	14	5	27	2	47	8
総計		35	6	30	10	146	16	211	32

(注) 団体の国名は応募してきた申込居住地を基準に表示しています。

## (2) 室内楽の演奏会の開催

平成23年度（4月1日～10月31日）は以下の事業を実施しました。

### 1. 「グランプリ・コンサート2011」の開催準備

コンクール&フェスタの優勝団体に演奏の機会を提供し、室内楽への理解と優れた芸術にふれる機会を増やす目的で、毎年開催するグランプリコンサート。

本年は、第7回「大阪国際室内楽コンクール」第1部門で優勝したアタッカ・クアルテット（アメリカ）を招いて、国内10会場で実施します。

2003年にジュリアード音楽院で結成されたアタッカ・クアルテットは、古典から現代曲まで幅広いレパートリーに取り組み、その素晴らしいアンサンブルと力強い表現力で、現在アメリカを中心に最も注目を浴びている弦楽四重奏団のひとつです。

10月までは、各地会場の日程確定、プログラムの決定、移動・宿泊の手配、チラシ・ポスターの印刷、プログラムの作成を行いました。

### 2. 出演：アタッカ・クアルテット（アメリカ）



### 3. 「グランプリ・コンサート2011」全国担当者会議の開催

コンサートを確実に成功させるため、6月10日（金）に大阪（YTV）で全国担当者会議を開催しました。

#### 4. 公演日程

日 時		公演名	会 場
11月 4日 (金)	19:00	札幌	S T Vホール
11月 6日 (日)	14:00	熊本	益城町文化会館
11月 8日 (火)	19:00	大分	別府大学大分キャンパス
11月10日 (木)	19:00	高岡	富山県高岡文化ホール
11月12日 (土)	14:30	三重	三重県文化会館小ホール
11月13日 (日)	14:00	兵庫	淡路市立しづかホール
11月15日 (火)	18:30	広島	庄原市民会館
11月17日 (木)	19:00	長野	松本市波田文化センター
11月20日 (日)	14:00	東京	津田ホール
11月22日 (火)	19:00	大阪	いずみホール

《全国共通》 主催：公益財団法人日本室内楽振興財団  
協賛：大和ハウス工業・トヨタ自動車  
助成：公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション

### (3) 助成に関する事業

平成23年度（4月1日～10月31日）は、以下の事業に対して助成を実施しました。

平成23年度は、選考委員会で選考決定された事業の中で1件は出演者の都合により開催出来なくなり辞退、1件は報告書等々の不備により減額となり、結果以下のような交付となりました。

	事業名	申請者	開催地
1	ストラヴィンスキーピアノ連弾版によるバレエ作品	大宅さおり	東京
2	岡井直子ピアノトリオ演奏会	岡井直子	東京
3	ドイツカンマーゾリステン講習会2011 ドイツカンマーゾリステン2011「講習会と受講生によるジョイントコンサート」 ドイツカンマーゾリステン室内楽コンサート	ドイツカンマー ゾリステン 飛田 勇治	名古屋
4	神戸国際芸術祭2011小学生のための楽しいコンサート	神戸国際芸術祭 実行委員会 実行委員長藤野和夫	神戸

#### 選考委員

	氏名	現職
委員長	藤田 由之	指揮・評論家
委員	青澤 隆明	評論家
委員	横原 千史	評論家
委員	根岸 一美	同志社大学教授
委員	三宅 幸夫	慶応義塾大学教授

#### (4) 広報誌等の発行に関する事業

平成23年度は以下のとおり広報誌「奏」を発行しました。

「奏」35号 4月25日発行

本号は5月に開催された第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の特集号として増ページ発行しました。

「奏」36号 11月初旬発行予定

#### (5) 調査研究事業

平成23年4月から10月末日までの間に、以下の事業を実施しました。

本事業については、6月の評議員会、理事会でその進捗状況と現時点での成果について報告しました。

2005年から2009年までの5年間の近畿地区（2府4県）における室内楽の演奏活動の実態を調査し、集計したものです。

この段階では単に事実を網羅的に把握して集計したものです。